

証券コード：6469



株式  
会社 **放電精密** 加工研究所

2023年2月期  
決算説明会資料

---

2023年 4月13日

## ■ 2023年2月期決算概要

- 2023年2月期通期 決算概要（連結） ……P. 3
- 2023年2月期通期 利益の変動要因 ……P. 4
- 事業概要 ……P. 5
- 2023年2月期 セグメント別概要 ……P. 6～
- 連結貸借対照表とCFの状況 ……P. 10
- 2023年2月期 設備投資・償却費・研究開発費 ……P.11

## ■ 中期経営計画2024の進捗 ……P.12～

## ■ 配当について ……P.29

- 別紙①：2023年2月期決算補足資料
- 別紙②：企業概要について

# 2023年2月期通期 決算概要 (連結)



※23年2月期3月予想：23年3月16日公表 業績予想

(単位：百万円)

	22年2月期 実績	23年2月期 3月予想※	23年2月期 実績	前期差 増減	3月予想差 増減
売上高	12,976	11,651	<b>11,679</b>	▲1,296	+28
売上原価	10,151	9,829	<b>9,752</b>	▲399	▲77
売上総利益	2,824	1,821	<b>1,927</b>	▲897	+106
販管費	2,190	2,251	<b>2,239</b>	+49	▲11
営業利益	634	▲429	<b>▲311</b>	▲946	+118
営業外損益	▲27	▲6	<b>▲10</b>	+16	▲4
経常利益	607	▲436	<b>▲322</b>	▲929	+113
特別損益	1,213	▲21	<b>▲18</b>	▲1,232	+3
税金等調整前 当期純利益	1,820	▲457	<b>▲340</b>	▲2,161	+116
法人税等	407	895	<b>947</b>	+539	+52
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,413	▲1,352	<b>▲1,288</b>	▲2,701	+64

## 2023年2月期連結業績予想の公表履歴

2022年 4月 5日：2023年2月期通期連結業績予想の公表

2022年10月 4日：2023年2月期通期連結業績予想の公表(通期の業績修正)

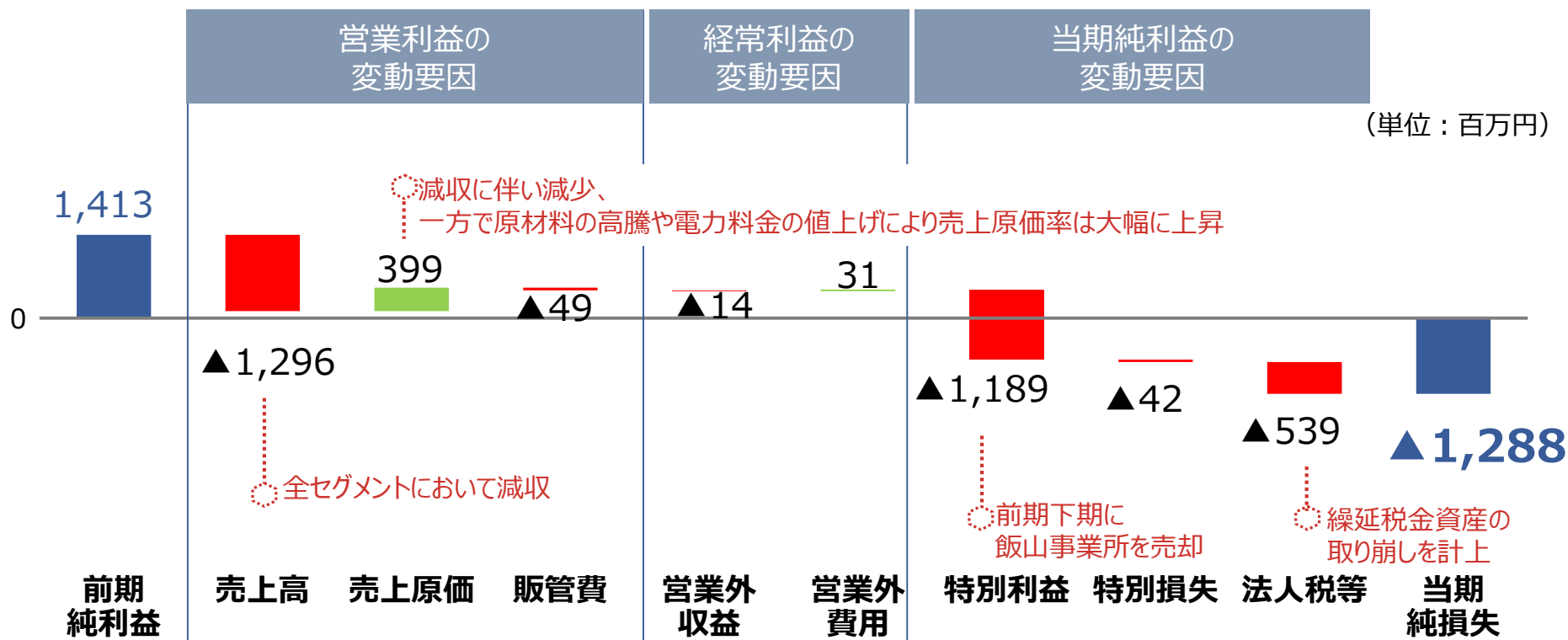
2023年 3月16日：2023年2月期通期連結業績予想の公表(通期の業績修正)

# 2023年2月期通期 利益の変動要因



前期比  
変動要因

コロナ影響による自動車業界の物量減少の影響  
および大幅な物価上昇により減収減益



※純利益/純損失：親会社株主に帰属する当期純利益/親会社株主に帰属する当期純損失

## 放電加工・表面処理

- 航空・宇宙 ~航空機エンジン部品
- 交通・輸送 ~自動車表面処理部品
- 環境・エネルギー ~産業用ガスタービン関連部品



## 金

## 型

- 住宅 ~アルミ押出用金型
- 交通・輸送 ~セラミックスハニカム押出用金型



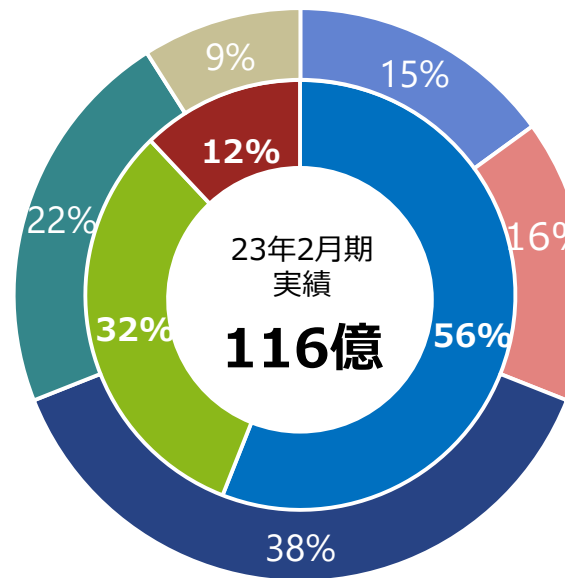
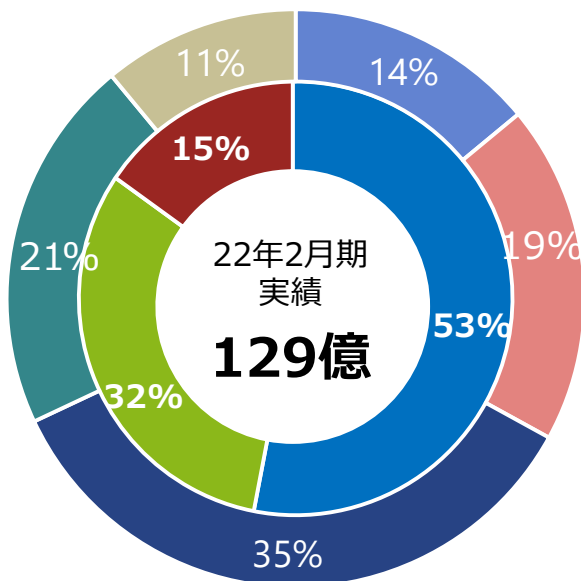
## 機械装置等

- 機械設備 ~プレス機・プレス付帯設備
- 交通・輸送 ~自動車関連プレス部品



セグメント別/事業分野別売上構成比率 (連結)

セグメント別 ■ 放電加工・表面処理 ■ 金型 ■ 機械装置等



事業分野別 ■ 航空・宇宙 ■ 交通・輸送 ■ 環境・エネルギー ■ 住宅 ■ 機械設備

# 2023年2月期セグメント別概要



(単位：百万円)

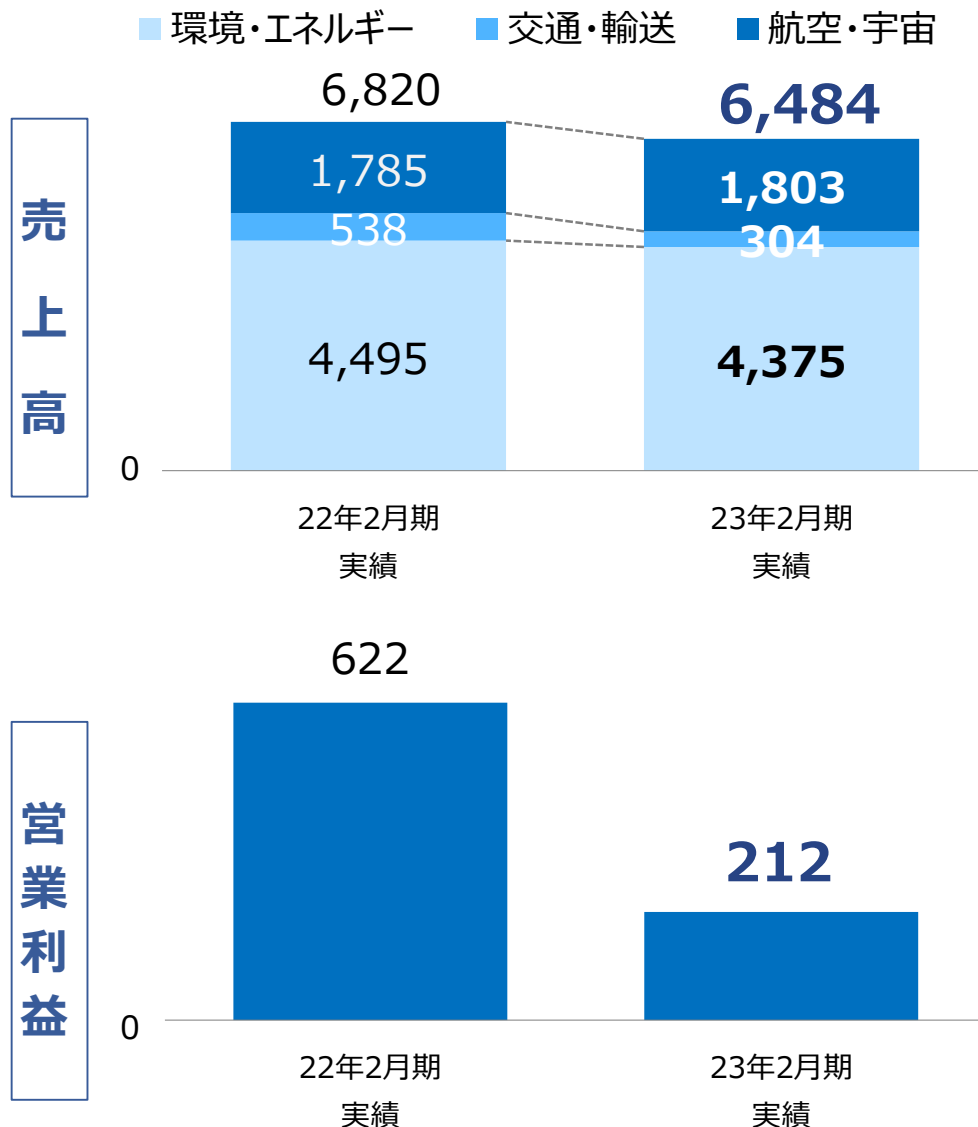
		22年2月期 実績	23年2月期 3月予想※	23年2月期 実績	前期差 増減	3月予想差 増減
売上高	放電加工・表面処理	6,820	6,509	<b>6,484</b>	▲335	▲24
	航空・宇宙	1,785	1,803	<b>1,803</b>	+18	-
	交通・輸送	538	325	<b>304</b>	▲233	▲20
	環境・エネルギー	4,495	4,379	<b>4,375</b>	▲119	▲3
営業利益		622	109	<b>212</b>	▲410	+102
売上高	金型	4,216	3,738	<b>3,793</b>	▲423	+54
	住宅	2,744	2,591	<b>2,645</b>	▲99	+54
	交通・輸送	1,471	1,147	<b>1,147</b>	▲324	-
営業利益		724	414	<b>429</b>	▲294	+14
売上高	機械装置等	1,939	1,403	<b>1,401</b>	▲538	▲1
	機械設備	1,430	1,008	<b>1,008</b>	▲421	-
	交通・輸送	509	394	<b>392</b>	▲116	▲1
営業利益		200	▲17	<b>▲25</b>	▲226	▲8
全社費用		▲913	▲936	<b>▲928</b>	▲14	+8
全社	売上高	12,976	11,651	<b>11,679</b>	▲1,296	+28
	営業利益	634	▲429	<b>▲311</b>	▲946	+118

※23年2月期3月予想：23年3月16日公表 業績予想

# セグメント別詳細：放電加工・表面処理



(単位：百万円)



## 前期比 減収・減益

売上高：6,820 ⇒ **6,484** (▲335)

営業利益：622 ⇒ **212** (▲410)

## 売上高増減要因

□航空・宇宙(↑)

◇航空機エンジン部品の需要が若干回復したことで増収。

□交通・輸送(↓)

◇自動車業界の在庫調整などの影響により減収。

□環境・エネルギー(↓)

◇ガスタービン部品は、一時的に増加したアイテムの生産が終了したことで減収。

## 営業利益増減要因

□(↓)

◇減収および電力料金や工場消耗品の値上げ

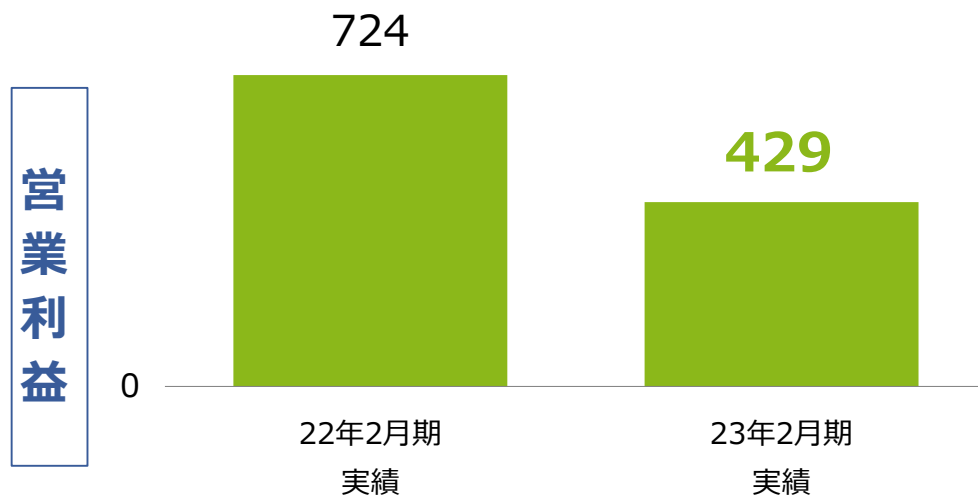
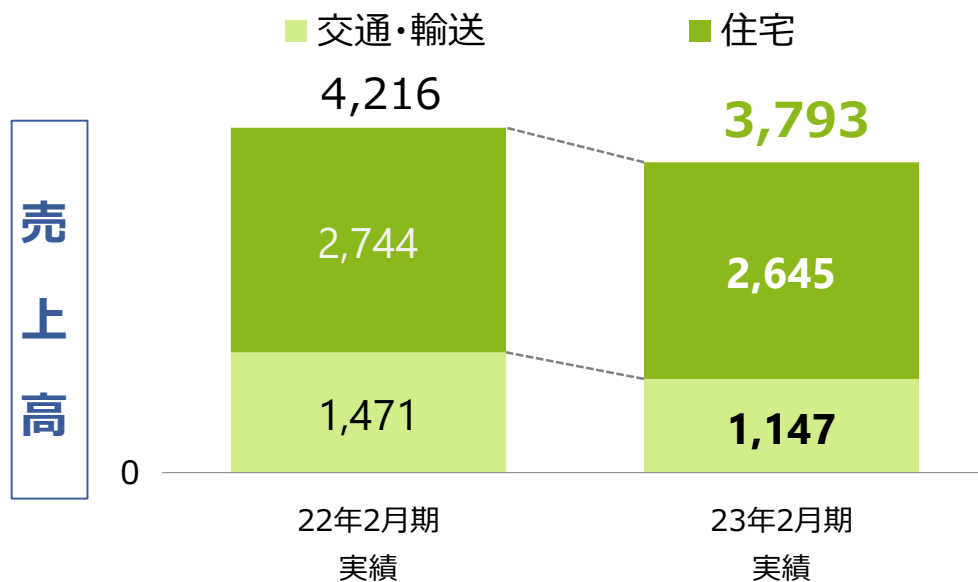
◇ガスタービン部品の政策的受注

◇航空機エンジン部品とガスタービン部品の新規アイテム立ち上げ費用の発生

◇成田事業所へ拠点集約に伴う一時的な稼働低下

# セグメント別詳細：金型

(単位：百万円)



## 前期比 減収・減益

売上高：4,216 ⇒ **3,793** (▲423)

営業利益：724 ⇒ **429** (▲294)

## 売上高増減要因

### □住宅(↓)

◇建材の価格高騰等による住宅需要減退の影響を受け、アルミ押出用金型が減収。

### □交通・輸送(↓)

◇中国市場の回復の遅れや、欧州や中国の新たな排ガス規制の不透明感などから、セラミックス押出用金型が減収。

## 営業利益増減要因

### □(↓)

◇減収および原材料の高騰や電力料金の値上げの影響により減益。



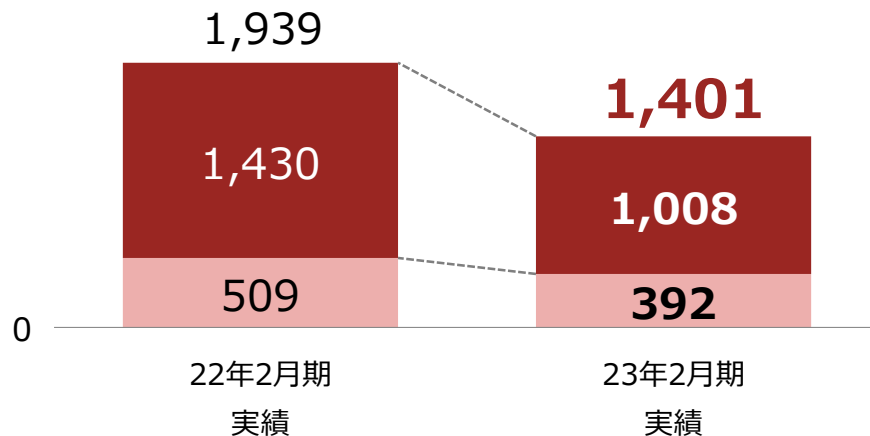
# セグメント別詳細：機械装置等



(単位：百万円)

■ 交通・輸送 ■ 機械設備

売上高



## 前期比 減収・減益

売上高： 1,939 ⇒ **1,401** (▲538)

営業利益： 200 ⇒ **▲25** (▲226)

## 売上高増減要因

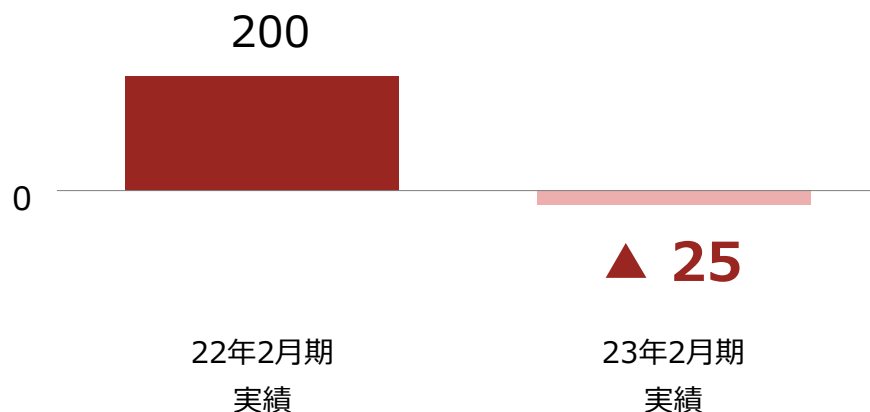
□ 機械設備( ↓ )

◇計画していた大型デジタルサーボプレス機の受注が獲得できず減収。

□ 交通・輸送( ↓ )

◇自動車関連プレス部品が生産計画の見直しなどの影響を受け減収。

営業利益



## 営業利益増減要因

□( ↓ )

◇減収および原材料の高騰や電力料金の値上げの影響により減益。

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

<b>流動資産</b> <b>6,298</b> 前年比：▲46	<b>流動負債</b> <b>6,083</b> 前年比：+1,241
<b>固定資産</b> <b>8,532</b> 前年比：▲669	<b>固定負債</b> <b>3,864</b> 前年比：▲584
	<b>純資産</b> <b>4,882</b> 前年比：▲1,374

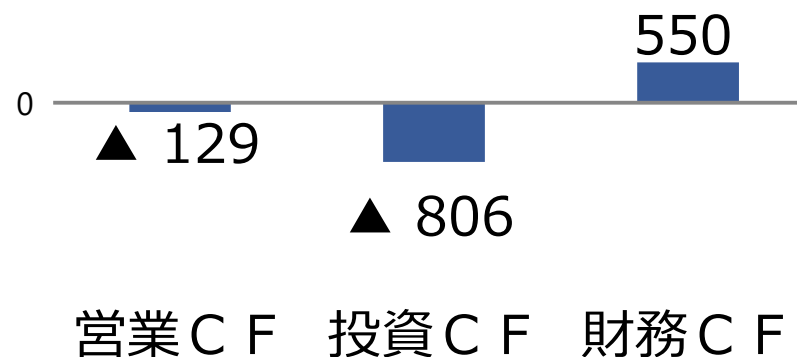
資産の部

負債純資産の部

## キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	22年2月期 実績	23年2月期 実績
現金及び現金同等物の期末残高	1,816	1,530



## 自己資本比率

2023年2月期	：	27.9%
2022年2月期	：	36.1%

## 設備投資／減価償却費

(単位：百万円)

	22年2月期 実績	23年2月期 実績
設備投資	1,407	962
減価償却費	833	710

## 2023年2月期 主な投資案件

- 合理化推進を目的とした成田事業所の隣地取得と拠点集約の実施

※土地取得金額約1億

- 海外子会社と国内拠点において設備の定期更新を実施

## 研究開発費

(単位：百万円)

	22年2月期 実績	23年2月期 実績
研究開発費	15	13

## 2023年2月期 主な研究開発案件

- DXやICTを活用した次世代に向けた生産体制構築
- 混合溶融技術の素材を活用した各種成型技術の検証

【2022年2月期～2024年2月期】  
**中期経営計画2024の進捗**

**次世代に向けた再構築** - Rebuild for the next -

## 中期経営計画2024 [2022年2月期～2024年2月期]

### 【重点施策】

- 既存事業の事業構造再構築と環境事業への注力
- 健全経営によるステークホルダーとの良好な関係の構築・維持
- 技術・技能の伝承および次世代に向けた人材育成の推進
- 新しい生活様式における健康な職場づくりの推進
- SDGsを意識したガバナンスの強化

### 2022年2月期

#### ◎ 黒字化達成

コロナ影響からの市場回復と各種施策効果

### 2023年2月期

#### ■ 数値目標未達

原材料の高騰や電力料金の値上げなどの市場悪化を合理化で相殺しきれず。

### 2024年2月期

#### ■ 未曾有な経済環境 継続

➤ 確実な収益確保で  
黒字転換を図る

## 国内製造業は正確な需要予測を立てることが困難な状況が継続

### 2024年2月期見通し

外部環境	当社の取り組み
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 原材料の調達難</li><li>■ 原油などのエネルギー価格高騰の継続</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 構成部品や材料の調達コスト上昇への対応</li><li>■ 電力料金の値上げによる製造費増加への対応</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 物流急増による混乱</li><li>■ 納期の長期化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 構成部品や材料の納期遅れへの対応</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 半導体調達は回復途上</li><li>■ 供給制約の緩和に伴う生産計画の見直し</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 市場動向を注視し、需要に合わせた生産体制を維持</li><li>■ サプライヤーチェーンを強化</li></ul>

エネルギー価格高騰などによる社会経済の不安定要因は継続、  
調達難や製造コスト増加への対応を一層強化

事業分野	アイテム	市場変動要因	●機会 ■リスク
航空・宇宙	航空機エンジン部品 航空・宇宙関連部品	旅客・貨物需要 保守・更新需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内線の旅客需要は順調な回復</li> <li>●国を跨ぐ移動制限の緩和に伴う旅客需要は一定数の回復</li> </ul>
環境・エネルギー	産業用ガスタービン関連部品 遠心圧縮機関連部品	エネルギー需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ロシア・ウクライナ情勢へのリスク懸念で各国、抜本的なエネルギー構築の見直し</li> <li>■新エネルギー・再生エネルギーシフトは需要旺盛も、まだまだ課題あり</li> <li>●コロナ影響による電力需要は依然として継続</li> </ul>
	混合溶融技術	環境意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プラスチック資源循環促進法施行もあり、再資源化に向けた需要拡大</li> </ul>
交通・輸送	セラミックス押出用金型 自動車関連プレス部品 自動車表面処理部品	自動車需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■半導体不足等の部品調達難・在庫調整などの影響</li> <li>●次世代自動車の開発はさらに加速</li> </ul>
住宅	アルミ押出用金型	国内住宅設備需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人口減少による新築戸数の減少</li> <li>■住宅価格高騰等による需要の減少</li> <li>●ZEH・ZEB等 省エネ対応の需要旺盛</li> </ul>
機械設備	デジタルサーボプレス機 プレス付帯設備	部品生産設備需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■経済成長鈍化による設備投資意欲の低下</li> <li>■構成部品の納期遅れ</li> <li>●次世代開発に向けた案件は国・自治体からの補助金活用含め依然として需要旺盛</li> </ul>

# 2024年2月期通期業績予想



## ■ 航空・宇宙分野の回復および徹底的な経費削減を断行し収益確保

※中期目標値：21年4月6日公表（単位：百万円）

	23年2月期 実績	24年2月期			
		予想	前期比	中期目標値	予想との差異
売上高	11,679	<b>12,433</b>	+753	13,719	▲1,285
営業利益	▲311	<b>122</b>	+434	760	▲637
経常利益	▲322	<b>94</b>	+416		
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,288	<b>59</b>	+1,347		
営業利益率	▲2.7%	<b>1.0%</b>	+3.7ポイント	5.5%	▲4.5ポイント

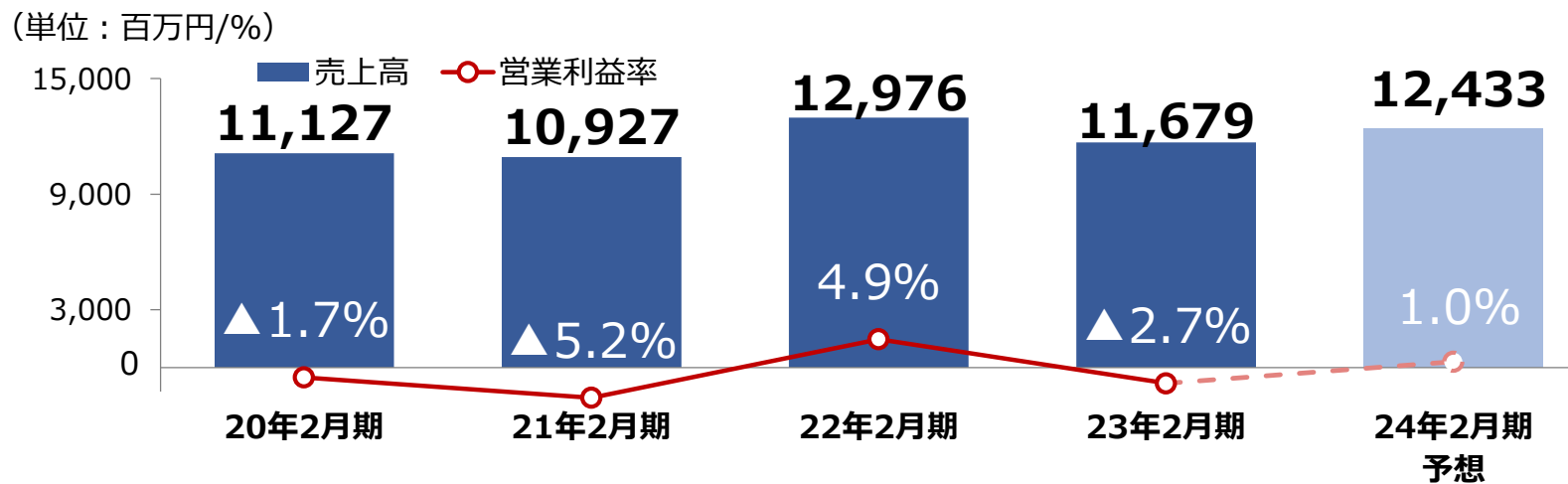
	24年2月期 上期予想	24年2月期 下期予想	<参考> 23年2月期 上期実績	<参考> 23年2月期 下期実績
売上高	5,804	6,629	6,025	5,654
営業利益	▲186	309	▲52	▲258
経常利益	▲201	295	▲51	▲271
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲140	200	▲22	▲1,265



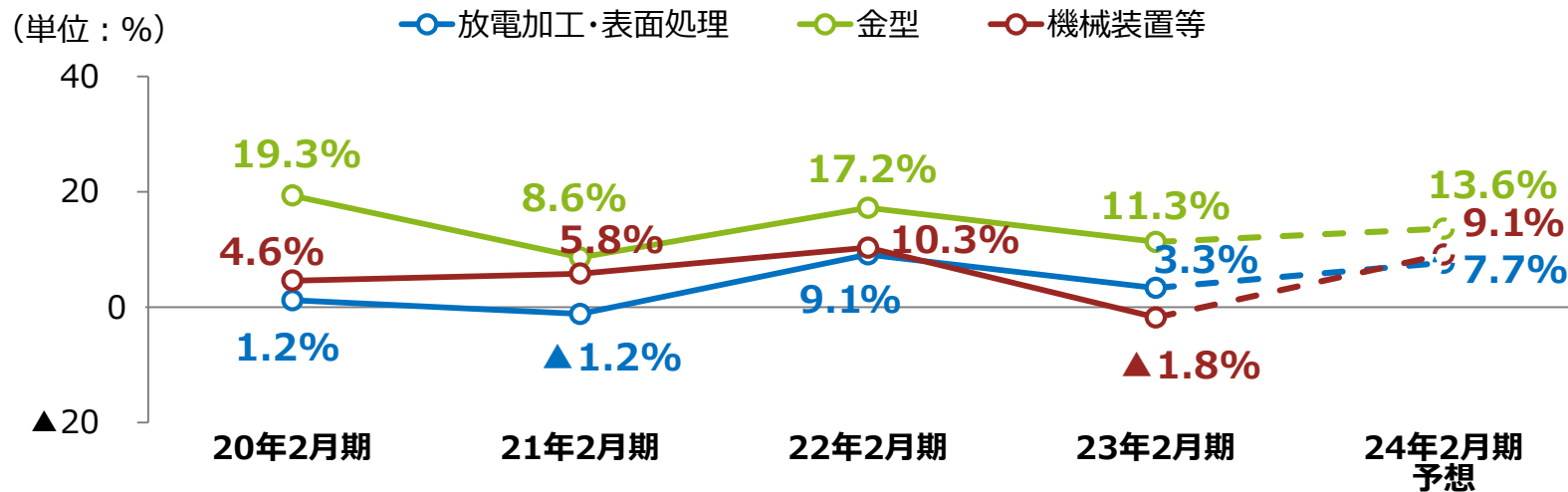
# 売上高・営業利益率推移



## 売上高と営業利益率の推移



## セグメント別営業利益率の推移



※1.営業利益率は外部売上上で算出しています。 ※2.セグメント営業利益率は本社費等控除前のものになります。

# 2024年2月期セグメント別概要予想(連結)



## ■ 上期は国内市場環境が先行き不透明なことから厳しくなることを想定

(単位：百万円)

		23年2月期 実績	24年2月期 通期予想	前期差 増減	24年2月期 上期予想	24年2月期 下期予想
売上高	放電加工・表面処理	6,484	<b>7,153</b>	+668	3,338	3,814
	航空・宇宙	1,803	<b>2,184</b>	+380	1,019	1,164
	交通・輸送	304	<b>236</b>	▲68	117	119
	環境・エネルギー	4,375	<b>4,732</b>	+356	2,201	2,531
営業利益		212	<b>549</b>	+337	124	425
売上高	金型	3,793	<b>3,649</b>	▲143	1,823	1,826
	住宅	2,645	<b>2,534</b>	▲111	1,263	1,271
	交通・輸送	1,147	<b>1,115</b>	▲32	560	554
営業利益		429	<b>495</b>	+65	244	250
売上高	機械装置等	1,401	<b>1,630</b>	+228	642	988
	機械設備	1,008	<b>1,230</b>	+221	461	769
	交通・輸送	392	<b>400</b>	+7	180	219
営業利益		▲25	<b>148</b>	+174	▲26	175
全社費用		▲928	<b>▲1,071</b>	▲143	▲529	▲542
全社	売上高	11,679	<b>12,433</b>	+753	5,804	6,629
	営業利益	▲311	<b>122</b>	+434	▲186	309

## 放電加工・表面処理

- 航空・宇宙関連は、航空機エンジン部品の生産量回復。
- 交通・輸送関連の市場は低調と予想。自動車表面処理部品は生産改善に注力。
- エネルギー関連は、遠心圧縮機関連部品は上期回復。ガスタービン部品は下期より増加。
- 環境事業は、設備販売を下期に見込む。

## 機械装置等

- 機械設備は、投資意欲の停滞および構成部品の長納期化を予想。小型機の販売は下期集中。
- 次世代蓄電池の量産に向けた試作開始。
- 交通・輸送関連は、前期並みと予想。需要に合わせた体制を維持。

## 金型

- 住宅関連は、アルミ押出用金型の市場環境は需要低迷の長期化と予想。需要に合わせた体制へシフト。
- 交通・輸送関連は、セラミックス押出用金型の市場は今年度も低調と予想。生産改善に注力。

## 全社費用

- 社内横断的な支援機能を強化するため、新体制の構築と取り組みの強化。
- 要素技術の応用、技術開発の強化。
- DXを活用した業務効率化。

収益の安定化

顧客の課題を解決する  
新たな工法の確立  
製品・サービスの創出

グループ全体最適の観点から  
事業ポートフォリオの見直し・資本効率の改善  
および技術力・提案力の向上

本社機能を強化し、本部制を導入

技術・営業本部

海外戦略部

購買・調達本部

経理部

人事・総務部

パワー&エナジー事業部

ダイ&ツール事業部

エアロエンジン事業部

産業機械事業部

環境マテリアル開発事業部

## 重点事業

リソースを活かした収益改善	新技術・新素材開発市場 向けの販売戦略強化	長期の成長ドライバーを 目指し、環境事業拡大
航空機エンジン部品	デジタルサーボプレス機	混合溶融技術

## 収益改善事業

選別受注および 生産体制の最適化	生産拠点統合による 生産体制強化	基盤事業の収益確保
産業用ガスタービン関連部品	遠心圧縮機関連部品	自動車表面処理部品
アルミ押出用金型		セラミックス押出用金型
		自動車関連プレス部品

## ■ リソースを活かした収益改善

### 取り組み状況

#### □ 航空機エンジン部品事業の黒字化

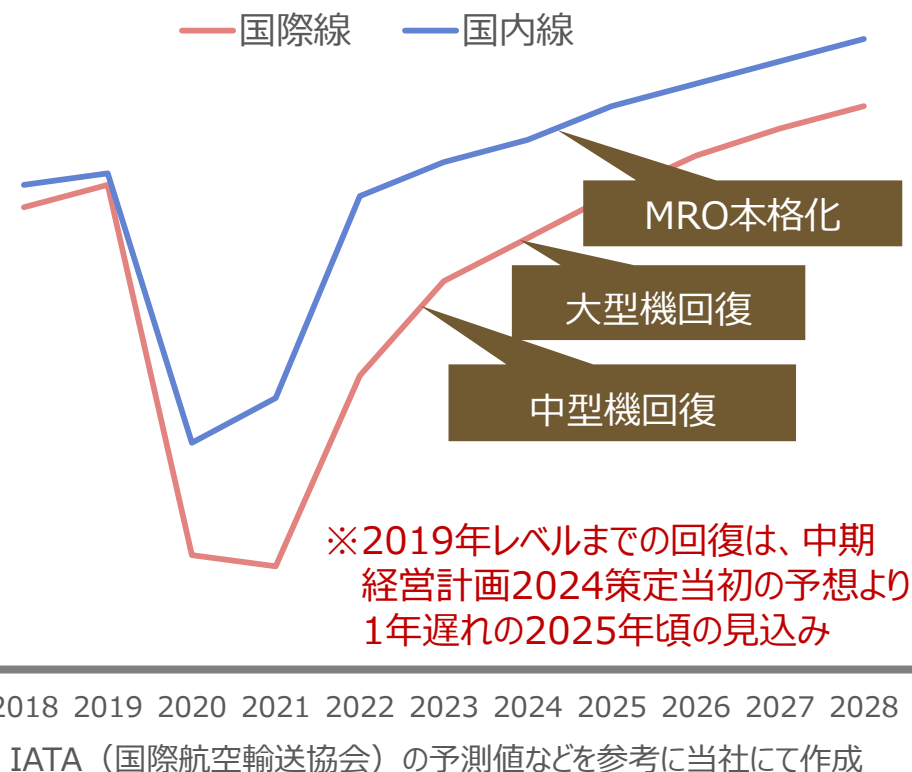
- 2023年2月期は、新規アイテムの立ち上げ等により製造コストが増加し未達
- 2024年2月期は、既存アイテムの物量回復に加え、新規アイテムの生産開始で黒字化

### 今後の方向性

#### □ 主要サプライヤーとしてのポジション盤石化

- 参入障壁の高い航空宇宙分野で、技術・体制をより一層強化
- 航空宇宙部品ネットワークAPNetサービスでアイテム拡充

### 当社の市場予想



## ■ 選別受注および生産体制の最適化

### 取り組み状況

#### □ 産業用ガスタービン関連部品の収益改善と体制強化

- 海外アイテムの原価管理強化
- 新規アイテムの生産本格化

#### □ アルミ押出用金型の徹底した合理化推進

- 選別受注と顧客深耕の強化
- 製造コストの最適化、品質・供給の安定化
- データを活用し業務プロセスの合理化

### 今後の方向性

#### □ コア技術を高め他分野へ展開

- 産業用ガスタービン部品は、次世代エネルギーへの切り替えに貢献
- アルミ押出用金型は、解析・設計能力を高め、産業分野のアイテム拡大を目指す



ガスタービン部品(画像提供：三菱重工業株)

## ■ 新技術・新素材開発市場向けの販売戦略強化

### 取り組み状況

#### □ 極薄フィルム・燃料電池市場の拡販

- 2023年2月期は、小型機販売が中心
- 2024年2月期は、プレス機のシェアリングサービスを通して、評価案件数の獲得と採用拡大への対応を強化

#### □ 次世代蓄電池の量産試作を開始。

- 次世代蓄電池部品向け量産工法の確立と早期量産化の開始を目指す

### 今後の方向性

#### □ 次世代モノづくり改革に貢献

- 電子機器および電池市場への拡販
- DXを活用したサービスの拡充
- 省エネ対応プレス機へ切替促進



デジタルサーボプレス機  
**ZENFormer**



## ■ 生産拠点統合による生産体制強化

### 取り組み状況

#### □ 生産体制強化

- 2023年2月期は拠点集約
- 2024年2月期は生産体制の早期安定化により収益改善

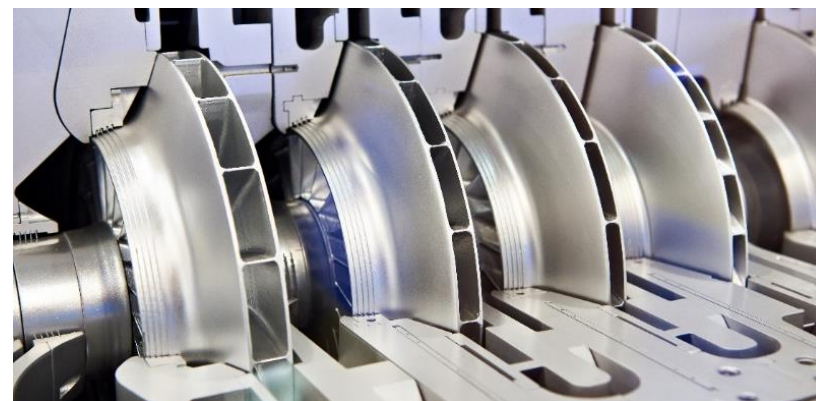
#### □ 新技術開発の加速

- 遠心圧縮機関連部品の新工法確立
- 新たな要素技術習得

### 今後の方向性

#### □ 次世代エネルギー市場にリソース集中

水素を輸送・貯蔵するための液化水素の生産性向上を目的とした開発に対応するため、小型化・高出力化などの技術確立・拡販を強化



プラント関連設備内の遠心圧縮関連設備

## ■ 基盤事業の収益確保

### 取り組み状況

#### □ セラミックスハニカム押出用金型の合理化

##### 推進

- 需要に合わせた生産体制の強化

#### □ プレス部品加工デジタル化推進

- 現状のボリュームゾーンでの製造コスト最適化による収益確保

#### □ 表面処理部品の生産性改善

- 工法改善と生産体制の最適化によるコスト削減

### 今後の方向性

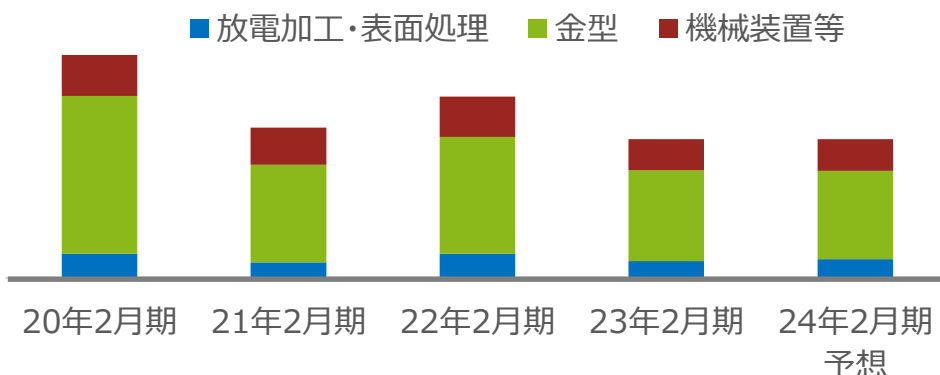
#### □ 基盤事業の収益確保

現状の物量で収益を確保する体制の盤石化

#### □ 要素技術の先進性を見極め、新たなアイテム獲得を目指す

最適なソリューションを創出することで、他の業界も含め新たなアイテムの獲得を目指す

#### 売上高推移



## ■ 長期の成長ドライバーを目指し、環境事業拡大

### 取り組み状況

#### □ 設備販売

- 当社製作のメカニカル混合溶融機を今期より販売開始

#### □ 製品試作

- 独自の混合溶融素材を用いた環境対応製品の各種成形試作を実施中

#### □ 素材開発

- 従来工法では作る事が困難であった環境対応材料の開発をオープンイノベーションスタイルで実施中

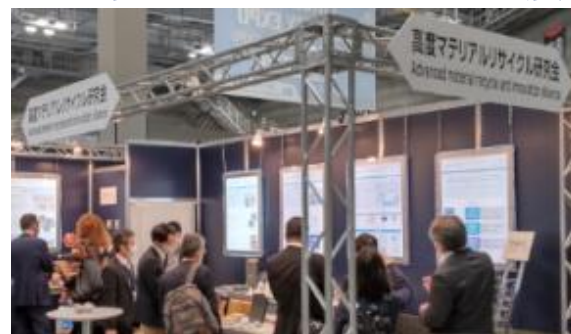
### 今後の方向性

#### □ 環境関連市場参入に向けた取り組み

- ① 混合溶融技術を主体とする新たなリサイクル・プラットフォームを構築
- ② 環境対応製品の社会実装を目指す
- ③ 化石由来のプラスチック代替素材を開発

#### □ 公益財団法人全日本科学技術協会と連携した研究会で社会実装に向け取り組み強化中

高度マテリアルリサイクル研究会として  
サーキュラー・エコノミーEXPOへ出展



2023年3月東京ビッグサイト

## 設備投資 / 減価償却費

(単位: 百万円)

	23年2月期 実績	24年2月期 計画
設備投資	962	<b>1,000</b>
減価償却費	710	<b>700</b>

### 2024年2月期 主な投資案件

- 定期更新設備のみ実施
- 海外子会社の設備更新

## 研究開発費

(単位: 百万円)

	23年2月期 実績	24年2月期 計画
研究開発費	13	<b>75</b>

### 2024年2月期 主な研究開発案件

- DXやICTを活用した次世代に向けた生産体制構築
- 保有技術の伝承、要素技術・新工法の開発
- 混合溶融機の開発および混合溶融技術の素材を活用した各種成型技術の検証

## 基本方針

株主様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと考え、  
現在及び今後の事業収益をベースに将来の事業展開や経営体質の強化のために  
必要な内部留保資金の確保などを勘案し、継続的かつ安定的な利益還元を実施します。

## 配当金

	配当金	配当性向
2022年2月期	20円	10.2%
2023年2月期	20円	-%
<b>2024年2月期（予想）</b>	<b>7円</b>	<b>83.4%</b>

みんなの「知らない」をカタチにする

**HJK** 株式会社 **放電精密** 加工研究所

本資料に記載された目標や予測等、将来に関する記載や記述があります。  
資料作成時点での当社の判断に基づき作成したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。  
また、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績や結果とは異なる場合があります。